

(別紙様式)

中山間ふるさと・水と土保全対策事業（ふる水基金）

中山間ふるさと・水と土保全推進事業（棚田基金）

事業実施計画

（第1回変更）

計画期間：令和2年度～令和6年度

計 画 内 容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業計画
3. 事業実施の成果目標と実績
4. 事業評価と対応

鳥取県

1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和6年度
現状と課題	中山間地域は、豊かな自然や景観、歴史と文化に育まれ、地域住民の生活の場としてのみならず、県土の保全、食料の供給然や食などの多面的な機能を有しており、長い年月をかけて先人たちが大切に守り育ててきた貴重な財産である。しかしながら、本県の中山間地域の現状は過疎化や高齢化の進展により、耕作放棄地の増加のみならず農業の共同活動等を支える担い手が不足し、集落機能の維持・存続も困難となりつつある地域もある。 このため、将来にわたる農業・農村の維持保全と保有する多面的機能を維持発揮するための効果的な対策をどのように複合的に展開していくかが重要な課題となっている。
事業実施の基本方針	本県では、10年後においても農業の活力を維持し、高めていく施策を推進するための羅針盤として「鳥取県農業生産1千億円達成プラン」を平成30年3月に策定し、目標の実現に向け各種施策を展開しているところである。また、当該プランでは、基本方針のひとつとして「地域の農業を元気にし、農とともに活きる鳥取県を実現する」ことを位置付けており、地域資源を活用した生産活動や魅力づくりを推進するほか、皆で支え合う豊かな村づくりに取り組むこととしている。 このため本事業では、社会貢献活動に意欲的なボランティアや企業、市街地住民組織といった多様な外部サポーターと連携した地域農業の推進や地域資源の保全・活用への取組を支援するとともに、農地・農業用施設に係る維持管理労力の低減、長寿命化、防災減災に向けた調査研究並びに普及啓発等への支援を通じて、地域農業の維持・活性化を図っていく。
計画後の目指す姿	多様なサポーターとの連携や関係人口の増加により、中山間地域の特性や資源を活かした生産活動や保全活動、魅力づくりが拡大するとともに、農村地域を守り、支えていく新たな人の流れや体制が構築されていくことを目指す。

2. 事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業（量）内容	総事業費（千円）				
中山間地域地域の維持・活性化に向けた取組	農山村ボランティア事務局運営を民間団体に委託し、ボランティアの人員確保と受入地区への派遣や受入地区の拡大に向けた調整を行うとともに、活動へのアドバイスや集落調査により、農村の実情や課題、求めている支援等について情報を整理し、今後の施策へ活用を図る。 （とっとり農山村資源保全活動推進事業）	①	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(1)	中山間地域における人手不足、後継者不足等への効果的な支援として、大学生や一般社会人などから構成される農山村ボランティアを派遣する取組を継続的に進め、5ヶ年で農山村ボランティアの受入集落（地域）を50集落（地域）まで拡大する。	50,152				
	中山間地域の農村集落と社会貢献に前向きな企業や市街地住民組織のマッチングにより、双方にメリットがある持続的な資源保全活動や営農活動、加工品づくり、交流等の取組を継続的に進め、農村資源の保全や地域活力の増進を図る。 （共生の里推進加速化事業、むら・まち支え合い共生促進事業）	①	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(1)	中山間地域における人手不足、後継者不足等への効果的な支援として、農村集落と企業や市街地住民組織等の多様なサポーターとのマッチングを継続的にすすめる、5ヶ年で累積協定地区数を20地区まで拡大する。	10,233				
農地の維持管理省力化や保全、防災機能向上に向けた取組	農地法面の草刈り作業に係る労力負担を軽減するため、芝を利用した農地法面管理省力化対策の実証やモデル地区の設置し技術の普及を図るとともに、本技術を活用した持続的な営農への取組の拡大を推進する。 （農地法面管理省力化支援事業）	②	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(2)	H28～H29に実施した農地法面管理省力化の実証試験結果を基に、本技術の普及・推進を図るためのモデル地区設置を継続して行う。 また、技術普及に向けた地域研修会等を開催や作業マニュアルの改訂を行うとともに、日本型直接支払等を活用した地域ぐるみでの取り組み推進などを段階的に実施していく。	12,325				
	適切な農業農村の維持保全を図るため、山腹水路やため池、地すべり防止区域などの実態調査やパトロール、長寿命化計画の策定、防災対策に係る調査研究や普及啓発を行い、市町村等と連携した適正な維持管理体制を構築する。 （農村防災体制サポート事業、地域で取り組むため池管理推進事業）	②	ふる水第3-2-(1)	山腹水路やため池、地すべり防止区域などの実態調査やパトロール、長寿命化計画の策定を継続的に実施しているところであり、今後5ヶ年間では、ため池の防災対策に係る効果的な施策を講じていくための調査研究やその結果に基づく普及啓発を大学等の研究機関と連携し、段階的に実施していく。	26,604				
農業・農村等の保全や機能発揮に向けた調査・研究、普及啓発の取組	農業・農村並びに農業用施設の円滑な保全を図るため、学識経験者等と連携した実態調査や対策研究を実施するとともに、農業・農村等が抱える課題解決や保全、機能発揮に向けたモデル設置や普及啓発を実施する。 （農業農村整備事業基礎調査、次世代型農業インフラメンテナンス推進事業など）	③	ふる水第3-2-(1) 棚田第3-2-(2)	農業・農村並びに農業用施設に対する実態調査や研究を学識経験者等と連携して実施し、農業・農村等が抱える課題への解決策を検討するほか、保全並びに機能発揮に向けたモデル的な取組などを段階的に実施する。	47,695				
中山間ふるさと・水と土保全対策事業（ふる水基金）				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
			計画事業費	20,850	22,503	20,179	19,064	18,350	100,946
			（実績額）	16,575					16,575
中山間ふるさと・水と土保全推進事業（棚田基金）			計画事業費	11,700	10,703	10,444	10,522	11,200	54,569
			（実績額）	7,469					7,469

赤字は実績値・変更計画

3. 事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度	備考
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
① 農業・農村の保全、活性化に係る共同活動に多様な人材が参画する地域数の増加	多様な人材の参画地域数(累積等)	63地域	70地域	42地域						
② 農地の維持管理省力化や保全、防災対策等に関する取組地域の拡大	管理省力化等への取組数(累積)	72地域(件)	99地域(件)	96地域(件)						
③ 農業・農村等の保全や機能発揮に向けた調査・研究、普及啓発の取組を推進	調査研究の取組数(累積)	1件	6件	1件						

4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針	
① 農業・農村の保全、活性化に係る共同活動に多様な人材が参画する地域数の増加	今までやってきたモデル地区は優良であるため、モデル地区の更なる横展開を図ってほしい。	新規地区等の掘り起しを引き続き継続し、モデルの横展開につなげる。	
② 農地の維持管理省力化や保全、防災対策等に関する取組地域の拡大	ため池が新たなリスク要因として近年関心が増加している。地域住民に関心を持っていただきため池の維持を行ってほしい。	引き続き防災減災対策や管理推進に取り組んでいく。	
③ 農業・農村等の保全や機能発揮に向けた調査・研究、普及啓発の取組を推進	農業水利施設の管理体制について良い検討だと思われる。	引き続き管理体制整備等について検討する。	